

## 受賞者の声（公開）

氏名	中山 友哉	
受賞時所属	(所属) 名古屋大学高等研究院	
	(職名) 特任助教	
現所属	(所属) 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所	
	(職名) 特任講師	
受賞テーマ名	メダカに学ぶ温度適応機構 水産有用種への応用で挑む気候変動対策	
<b>受賞テーマにおける研究活動の現況</b>		
<p>地球温暖化による気候変動は人為的なものとされていますが、温帯では元来季節の変化に伴って大きな環境変動が繰り返されています。そのため、温帯に生息する多くの動物は柔軟性や頑健性を備えた環境適応能力を有することが多いです。メダカ (<i>Oryzias latipes</i>) もその一つであり、4°C から 40°C と魚類の中でも突出した広さの温度域に適応可能です。しかし、なぜメダカがこのような幅広い温度域に適応可能か明らかとなっておりません。本研究では優れた温度適応能を有するメダカをモデルとして魚類の温度適応機構の分子機構を明らかにし、その知見に基づいて魚類の温度耐性をはじめとした魚類の生理機能を制御する育種技術を開発することを目的としています。</p>		
<b>今後における研究活動の展望</b>		
<p>本研究では、メダカをモデルとして魚類の温度適応に関わる分子機構の解明を進めていきます。具体的には、ゲノム編集を用いた遺伝子の機能解析により、広い温度域への適応を可能にするキーとなる遺伝子の同定と、その制御ネットワークの解明を目指します。さらに、メダカで得られた知見を水産有用種へと展開し、温度耐性や成長特性を改善する育種技術の開発につなげることで、気候変動に強い水産業の実現に貢献したいと考えています。</p>		
<b>受賞後の反響・各賞の受賞等</b>		
<p>本賞の受賞はちょうど任期終了のタイミングと重なり、研究業績を客観的に評価していただく機会となりました。結果として名古屋大学での新たなポストを得ることができ、研究を継続する大きな転機となりました。また、その後も学会の奨励賞を受賞するなど、本賞が研究者としての自信と活動の弾みになったと感じています。</p>		
<b>わかしゃち奨励賞への期待</b>		
<p>任期が切れるタイミングでの受賞となり、次のステップへ踏み出す大きな励みとなりました。本賞のように若手研究者の挑戦を評価・支援する仕組みは、研究を続ける上での精神的な支えとなります。また、研究活動の社会的な認知にもつながる非常に重要な取り組みだと感じています。今後も多くの若手研究者がこの賞を通じて自信を持って研究に臨めるよう、本賞がさらに発展していくことを期待しています。</p>		